

里山の魅力再発見めざしシンポジウム開催

市内3団体が事例発表し、意見交換

市主催の里山シンポジウムが23日、無印良品直江津のオープンスペースで行われました。これは里山の魅力を再発見してもらおうと企画されたもの、市内各地から約30人が参加しました。

シンポジウムでは、上越やまざと暮らし応援団など3団体が事例発表し、意見交換しました。

事例発表のトップは上越やまざと暮らし応援団の嶋谷幸彦さん。嶋谷さんは10年ほど前に結成した同応援団の仕事は、移住者支援と仕事づくりだとのべ、そのなかで森林整備に取り組んだ理由やエネルギー自給に向けた取組を紹介しました。2番目は名立区不動の久保埜光夫さん、久保埜さんはたくさんのスライドをつかって不動生産森林組合が取り組んでいるブナ材の伐採や炭生産、ブナ林での勉強会などについて語りました。スライドにはミズバショウの花やサルナシの実なども出てきました。最後はかみえちご山里ファン倶楽部の渡邊恵美さん。渡邊さんは、20年前に設立した同クラブが、上越市の西部中山間地域で春から冬ま

で、「今は失われつつある山里の暮らし、伝統」を守り、地域資源を活用した活動などを展開してきたことを紹介しました。

意見交換では、上越やまざと暮らし応援団の天明伸浩さんが進行役を務めました。天明さんは、3団体とも山里をうまく使っているとして、ここをどう発展させたいかと問いかけました。

嶋谷幸彦さんは、妄想だと叱られるかもしれないがと前置きし、

「田んぼはすぐそばがうっそうとしている。素敵な山里にし、市民が歩けるようにしたい。できれば、(伐採した)木を出すために馬を使ってみたい」と夢を語りました。

久保埜光夫さんは、「自前の山があるのに金をうまないこの地区を豊かにしたい。昔は石油が出て、芸者もいた『高田町』があった。移住者ゼロだが、1人でも2人でも来てもらいたい」とのべました。

渡邊恵美さんは、「いろいろな楽しみを



伝えて20年になる。お金になることは少ないが、遊びが学びになり、人とつながり、仕事になる。自分の暮らしをしっかりと決めて、物事を進めていくのが大事だ。日々の暮らしのなかに里山通いを入れてほしい」と訴えていました。

全体として、里山で暮らしをしっかりと見つめて、楽しく、夢を持って活動されているなと思いました。



【センブリ】(再掲) リンドウ科の2年草。漢字で「千振」と書きます。秋に咲く最後の花のひとつです。名前は「千回振り出しても苦い」ことからつけられたとか。薬草として有名です。花期は8月～11月ですが、私のところでは毎年10月下旬に開花します。花言葉は「はつらつとした美しさ」「弱者を助ける愛」。写真は10月20日、吉川区小苗代にて撮影しました。

「屋内退避」基本 即時避難 対応 : 原子力災害

柏崎刈羽原子力発電所で原子力事故と地震災害等が重なった場合の住民避難をどうするか問題となっています。特に原発から半径5〜30km圏の避難準備区域(UPZ)での対応が問題です。9月議会では、日本共産党議員団の平良木議員がこの問題をとりあげ質問しました。

同議員は、「原子力災害時における避難行動については、屋内退避を基本としているが、複合災害時の屋内退避は危険性が

高まるため、即時に避難すべきと思うが、どのように考えるか」と質問しました。

これに対して村山市長は、「原子力災害では、放射性物質の放出の状況によっては、自然災害とは異なり、市町村の区域を超える住民の広域避難も想定されている」

「こうした原子力災害特有の広域避難を迅速かつ円滑に行うため、新潟県をはじめ県内市町村は、国の防災基本計画を踏ま

え、PAZ(ピーエーゼット)の住民の即時避難、UPZの住民の屋内退避・一時移転といった、その区域の住民が段階的な避難行動をとり、かつ広域避難してきた住民の受入れができることを基本に、原子力災害に対応する『地域防災計画』を策定している」

「当市としては、これまでどおり、複合災害も含めた原子力災害時の避難行動は『屋内退避』を基本としつつも、『人命最優

先の観点を踏まえ、被害状況に応じた避難行動を適切かつ臨機に判断することとしてまいりたい」と答えていました。

原子力災害と地震災害などが重なった場合、屋内退避できないケースもありうることから、今後の原子力災害対策を進めるうえで、今回市長が、「屋内退避」を基本にしつつも、臨機応変に判断するのべたことは、即時避難もありうるという認識を示した点で重要です。



No.2034 2021.11.1
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

春よ来い

第六八一回

夫婦そろって

世の中には几帳面な人がけっこういるもんです。長い付き合いの知人のことですが、最近になって、五十年以上も日記を書き続けていることを知りました。

この人は二〇〇五年(平成一七)の市町村合併の前から知っている中郷区のSさんです。いかにも農業が好きで、細かいことは苦手といった風貌なのですが、実際はそうではありませんでした。

八月九日、午後三時過ぎに私はSさん宅にお邪魔しました。この日はとても暑い日で、喉が渇いていたのですが、お連れ合いのKさんから、「お茶、出ますよ」と言われたら、即座に、「じゃあ、ちよっとお邪魔します」と言ってお茶を飲ませていただきました。

Kさんの言葉通り、二人でお茶を飲んでおられたんですね。居間に入らせてもらうと、Sさんは、「こんな暑い日はどこも出ね方がいい」と言われました。

座って最初に目に入ったのは、すぐ前のテーブルの上にある分厚いノートでした。これがSさんの日記帳だったのです。昨年からお使い始めたノートで、この一冊があれば、二年分の日記が書けるといいます。確かに、それだけの厚さがありました。

びっくりしたのは、Sさんが一九六五年(昭和四〇)から休まず日記を書き続けていることでした。それから五一年も経ったというのですから、すごいですね。いま使っているノートと同じものを使い続けたとしたら、ノートの冊数は二五冊にもなるはず。

Sさんは、この日記帳が三冊になると、ノートの端に穴を開け、「コリ」でしばり、しまっているそうです。ここまで徹底してやるとなると、もう几帳面そのものですね。

日記のことで話が弾んでいるときに、Kさんが冷やしたトマトとお菓子を用意してくださいました。そして、「橋爪さんは、

写真も絵もやんなるがですね」と言いながら、居間に飾ってあった額入りの絵について説明してくださいました。

壁には、近くの池などを描いた二枚の絵が飾られていました。一枚は水彩画、一枚はパステル画です。どちらもSさんの作品だということでしたが、あまりにも上手く描けているので、これも驚きました。Sさんは、暇だから描いたと謙遜されましたが、いずれの絵も几帳面な人ならではのキメ細かさのある作品でした。

Sさん宅で、私が驚いたのはこれで終わりませんでした。Sさんの姉に当たる人も中郷区に住んでおられて、この人は八〇代から絵を描き始め、一〇年ほどになるというのです。これにも驚きました。兄妹ですから、血筋がそつなのかも知れません。

この日、私が一番びっくりしたのは、Kさんのことでした。お連れ合いの日記のことが話題となったときも絵のときも自分のことのようにニコニコされていました。まさか、Kさん本人も絵を描くことが好きだったとはね……。

Kさんは、Sさんが仕事の関係で夜遅くになったときに、時間つぶしに絵を始めたということでした。でも、それだけではないと感じました。Kさんは自分で描いたミカンやキウイフルーツなどの絵を私に見せてくださったのですが、その様子が実に楽しそうでした。本当はもっと前から絵が好きだったのかも知れません。

どうあれ、Sさん夫婦がそろって几帳面に、絵を描くことが好きだというのは最高に素敵です。おそらく、二人が描いた絵はお互いにほめ合い、どんどんうまくなって来られたのでしょう。そして、絵を学ぶ意欲はますます旺盛です。先日、Sさんから頼まれていた三上詩絵の『色鉛筆のレッスン』を届けてきました。一体どこまで上手くなるのでしょうか。

「手づくり小さな文化祭」、今年も力作ぞろい

浦川原地区公民館で開かれていた「手づくりの小さな文化祭」を24日、少しの時間でしたが観てきました。

この文化祭には小学生から保倉の里などの施設に入所されている高齢者まで、幅広く出展されています。絵画、写真、塗り絵などを誰もが出展できて、楽しめる企画となっているところがいいですね。

作品数はそんなに多くはないのですが、どの作品も魅力的です。紹介したい作品がいっぱいあるのですが、白黒印刷の関係から2つだけ掲載させていただきました。

一つは、「山の上にきりがかった」というタイトルのHさんの絵です。色の組み合わせがとてもきれいで、山にかかった霧がよく描けていました。

もうひとつは、山岸郁子さんと北澤幸男さんの俳句です。山岸さんのたき火の句を読んで、たき火が恋しくなりました。北澤さんの平和記念式典でのハト、目に浮かびました。平和への思い、伝わります。

会場では、Kさんなど何人もの方から声をかけていただきました。ありがとうございました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月20日(水)	10月26日(火)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.070	0.057
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.057	0.057